

研究活動一覧（第 33 輯）の刊行に際して

この度、杉谷（医薬系）キャンパス研究活動一覧が刊行されるにあたり、関係者のご尽力に敬意を表する次第です。医薬系キャンパスにおける国際水準の研究活動が、この研究活動一覧によく現れていると思います。

さて、平成 22 年 4 月から、国立大学法人富山大学の第Ⅱ期中期目標・中期計画（6 年間）がはじまります。本学の第Ⅱ期中期計画で、附属図書館に関するものは、「大学の教育方針や利用者のニーズに依拠した図書館の環境整備を進め、電子図書館機能の整備・充実を図る。」という項目です。

この中期計画に対応する平成 22 年度計画（案）は以下の通りです。

- 1) 大学の方針と図書館利用状況に基づく図書館整備計画を策定する。
- 2) シラバス掲載図書を中心に学生用図書の整備を進める。
- 3) 電子ジャーナル等の整備と全学的利用についての問題点を検討する。

最初の項目については、現在、図書館将来構想ワーキンググループにおいて、将来構想（事業計画）を検討中です。利用者の方々からも今後の図書館のあり方についてご意見・ご提案をお寄せいただければ、幸いです。医薬学図書館のスペースは富山医科薬科大学創設以来同じです。しかし、学生数は学科の新設、入学定員の増加等により、1.8 倍に増えてきています。図書館の狭隘化は明らかで、これはできるだけ早く解決すべき課題と思います。

第 2 のシラバス掲載図書については、関係者のご理解・ご協力により、最近になってほぼ 90%整備することができました。シラバス掲載図書を網羅的に整備することは、学習支援としての図書館の重要な使命の 1 つです。去る 1 月 26 日に、大学評価・学位授与機構の大学機関別認証評価の主査を務めた経験のある経営協議会の外部委員が附属図書館を視察されました。その時の最初の質問は、「シラバス掲載図書は整備されていますか？」というものでした。

電子ジャーナルについては、歴代の医薬学図書館長のご努力でよく整備されていると思われまます。最近バックファイルの購入も行っています。全学的利用については、その是非も含めてその問題点を検討するのが平成 22 年度の課題です。

では、この研究活動一覧が、医薬系キャンパスだけでなく、本学全体の教育研究活動の活性化にも貢献することを祈念しております。

理事・副学長

倉 知 正 佳

附属図書館長

Kurachi Masayoshi